

しょうどしまやかたぎきゆうひのおかけいしょうかい

小豆島屋形崎夕陽の丘継承会

～百年後の子孫に遺す豊かな人情と美しい風景～



園児たちとのアズの植樹祭



毎月、段々畑の手入れに奮闘中

経緯

- かつては「日本の夕陽百選」にも選ばれた名所だが、近年は雑木林になっていた。
- 2013年の瀬戸内国際芸術祭を契機に、有志が一念発起。雑木を整備し、人々が集まる美しい夕陽の丘へと再生する活動に取り組んでいる。

取組内容

- 荒廃化した段々畑を整備し植樹祭イベントを実施し、地元の園児とともに植えたアズとレモンの無農薬栽培を企画。
- 「東瀬戸内小豆島狼煙隊」のメイン会場となり併せて「四海水軍太鼓」による演奏を企画し、老若男女が楽しめるにぎわい作りを企画。
- 果実の収穫量増加に伴い特産化を目指して島内飲食店と協力。東京のアンテナショップでの販売や次回の瀬戸内国際芸術祭に向けてジャム等の商品化を開始。

活動の効果

- “ハイジのブランコ”や“ハンモック”を手作りし、菜の花やヒマワリなど四季折々の花を咲かせた高台はHPやインスタグラム掲載数も増加し、隠れフォトスポットとして島内外の訪問者数増加につながった。
- 月に1度の草刈日は移住してきた若者もボランティアで参加し、地域住民との交流の場になった。

応募団体からのアピール・メッセージ

現在の取組みを地域に波及させ、知名度の向上と交流人口の増加を目指しています。花見や収穫体験など訪れる人々との交流イベントを企画し、収穫した果実については地域飲食店等と連携して加工食品化に取組み、事業の輪を拡大していきます。

しょうどしまひあたりのさといぎすえ

小豆島陽当の里伊喜末

～農業の大切さや地元への愛着心を伝えたい～



芋掘り体験みんなで写真撮影



芋づるの塔



オリーブ収穫体験

経緯

- 瀬戸内海を望む風光明媚な地区だが、過疎化・高齢化が進み、数年前から荒廃地が目立つようになってきた。
- 危機感を抱いた有志数名が、地域に活気を取り戻そうと、農業振興と明るく元気な農村づくりをめざし、平成29年度に「小豆島陽当の里伊喜末」を立ち上げた。

取組内容

- ビール醸造所「まめまめビール」と「小豆島陽当の里伊喜末」が協力して、100%小豆島産のクラフトビールを誕生させる「二条大麦プロジェクト」を実施。
- 地元の子供らにサツマイモのつる挿しと収穫の体験を実施。
- 獣害の防止のため、約2.2kmに渡る被害防止柵を設置。

活動の効果

- 麦やオリーブの作付けにより遊休農地の解消。
- 「芋づるの塔」は芋のつるを自然乾燥させて牛の餌や堆肥にするための古くからの知恵で、地元住民と町職員でつくる「よつみいきいき協議会」が2010年から、地域の風物詩として実施している。
- 獣害防止柵の設置により、現在では獣による被害はほとんど見受けられない。

応募団体からのアピール・メッセージ

グリーンツーリズムなどのイベント参加の募集や活動の情報発信のためHPを開設し、当地区内の各団体と連携を図り、様々な活動を行って元気な農村にしていきたい。

しょうどしまちょうなかやまたなだきょうぎかい

小豆島町中山棚田協議会

～先人の汗の結晶を未来へ継ぐ「中山千枚田」～



中山千枚田における田植え作業



伝統行事中山農村歌舞伎

経緯

- 中山千枚田では、耕作者の高齢化と後継者不足が進み、エリアの3割が耕作放棄地となり、地区住民は将来を危惧していた。
- 文化の源である中山千枚田を守るためにアドバイザーに農村工学研究所を迎え、住民主体のワークショップ等を通じて、「棚田の村構想」を打ち立て、その具体的な取り組み主体として設立された。

取組内容

- 平成25年に日本とインドネシアの6大学による農業体験プログラムをきっかけに、学生たちによって「棚田の会」というプロジェクトが立ち上げられ、ボランティアの受け入れや棚田の耕作体験の支援を実施している。
- 平成27年度から、地元の酒造会社と連携し、酒米の耕作に挑戦している。そして、精米歩合などにこだわった小豆島の地酒として販売されている。

活動の効果

- 地区外の人たちとの交流により、外部の視点から意見を聴く機会が多くなり、今まで気が付かなかった棚田の魅力に気づき始め、地元住民の棚田の文化を守らなければという意識が強くなってきた。
- 休耕田となっていたところや耕作者が不在となるところで、酒米づくり等を実施することにより、休耕田の解消・予防につながった。

応募団体からのアピール・メッセージ

「全国棚田百選」にも選ばれた中山千枚田の棚田カード配布中。
小豆島には魅力あふれる観光地が満載！ぜひ、お立ち寄りくださいませ。

ひがししょうちいきのうぎょうしゅうだん

東條地域農業集団

～小豆島で、子供と一緒に心豊かなむらづくり～



どろんこ祭り



さつまいもの植付け

経緯

- 基盤整備を契機に農地の受託者を組織化するため、集落営農組織を設立。
- 安全・安心なお米を消費者に提供するため、全構成員がエコファーマーの認定を受け、減農薬・減化学肥料栽培に着手。
- 水稻の共同防除にドローンを使用。会員を対象にGAP講習会を実施。

取組内容

- 米の減農薬・無化学肥料栽培による安全・安心なブランド米「安田の郷」を栽培。
- 農作業体験の実施とともに、産直市場・農家食堂を開設、収穫祭の開催など生産者と消費者の「顔の見える」結びつきを強化。
- 地元の子供を対象に水稻やサツマイモの栽培等10回以上の食育イベントを開催。
- 地域住民と共に地区全体に獣害対策用柵を設置したほか、会員が狩猟免許を取得して箱罠を設置。

活動の効果

- 独自ブランド米「安田の郷」は、毎年早期に完売し購入希望数に追いつかない状況。
- 米やさつまいもの農作業体験や農産物を利用した食育イベントを通じ、保育所・幼稚園・小学校等の子供たちへの情操教育に貢献。
- イノシシ・シカなどによる獣害対策に取り組み、自作の箱罠などにより毎年多くのイノシシを駆除。

応募団体からのアピール・メッセージ

農業者の高齢化と地域の過疎化が進む中、農地を守り次世代へ継承するとともに、地域内外の交流促進により「活気あふれる心豊かなむらづくり」を目指しています。

しょうどしましょくざいかいはつかいぎ
小豆島食材開発会議

～島を元気に！「小豆島長命草プロジェクト」～



収穫から調整作業までの出荷体制を皆で確認



長命草さめきうどん

経緯

- 島内企業から、新商品開発に繋がる特長ある原料農産物が求められていた。
- 長命草は、島嶼部の露地栽培に適した塩生植物で、醤油粕を肥料に活用できる上、軽量で高齢者にも栽培し易い。また、栄養価が高く機能が期待されるため、これを特産品化することで地域振興につなげようと食品団体等と生産者有志が集まり、6次産業化とPRの取組みを開始した。

取組内容

- 「醤油粕」を肥料化し、農薬や化学肥料を使わない栽培技術を確認。オリーブの絞り粕の堆肥の使用など、効率化に向け新たな栽培方法を調査中。
- 「しょうどしま長命草」の商標権登録を申請し、14点の商品の更なるブランド化を図った。
- 「血糖値抑制効果」があるとされる長命草を練り込んだ無塩のさめきうどんを開発し、機能性表示食品として登録。
- 子どもたちとの料理教室で長命草をメニューに取り入れて紹介。

活動の効果

- 長命草は地元食品企業との契約栽培のため、農業者は安定した収入を確保している。
- 食品企業は産業廃棄物だった製造副産物(醤油粕)が活用でき、小豆島らしい循環型の効率的な栽培方法が確立された。
- 島内小学生への苗の無償配布や島内イベントへの出展を継続することで、新たな健康食材として注目度が高まった。長命草を目当てにしたイベント等での集客が増え、島内飲食店やパン店等で新たに扱う店舗も増え、地域の活性化に繋がっている。

応募団体からのアピール・メッセージ

「小豆島長命草プロジェクト」は、長命草を使った小豆島らしい特産品づくりと地域振興を目指した取り組みです。 <https://shodoshima-choumeisou.com/>

小豆島町馬木甲1032-1 Tel:0879-82-1011

まるおかいきいきくらぶ

丸岡生き生きクラブ

～集落の豊かな自然環境を守る！～



子供中心で行うサツマイモ植え付け



子供達も楽しみにしているコスモス祭り

経緯

- 農地・水・環境保全活動に取り組むため、丸岡営農組合が中心となって結成。
- 丸岡集落の豊かな自然環境を守るため、農業者以外にも様々な立場の住民をまきこむ。

取組内容

- 4月 用水路清掃
- 5月 ため池堰堤草刈り、サツマイモ植付
- 6月 用水路清掃
- 7月 ため池堰堤草刈り
- 8月 コスモス畑耕耘、播種
- 9月 ため池堰堤草刈り、サツマイモ収穫
- 10月 コスモス畑周辺草刈り
- 11月 コスモス交流会（保育園児・老人施設等招待、小学生展示物作成、今年は見送り）
- 12月 ため池堰堤草刈り
- 1月～3月 用水路・水門補修（年間スケジュール）

活動の効果

- コスモス交流会（令和2年は新型コロナウイルスの影響で開催を見送り）は、来訪される方が少しずつ増加し、地域の活動団体も新たに生まれている。
- 農業者以外にも様々な立場の住民が一体となったことで、丸岡集落の豊かな自然環境を守れている。

応募団体からのアピール・メッセージ

役員及び住民の高齢化が不安材料ですが、若手の後継者を育てつつ、活動内容を再点検して有効かつ無理のないものに集中しながら取り組んでいきたい。

みつごいしいけしげんほぜんくみあい

三ツ子石池資源保全組合

～地域の人みんなで明るく・楽しく～



田中幼稚園芋ほり大会



遊休農地を活用したコスモスの植栽

経緯

- 宅地化が進み、非農家との混住化、農業従事者の高齢化等により農家個々のみでは地域内の農業用排水路等施設及び地域農業を守ることが困難となる。
- 地域コミュニティにおける交流が希薄化しており、地域一体となって地域資源である農地、農業用施設の保全管理が必要となる。

取組内容

- 住民アンケート結果を踏まえた体制整備構想を作成し、地域資源の保管理、農業後継者の育成・確保及び地域の連携を柱とした活動に取り組む。
- 隣接する活動組織と共同して主要幹線道沿いの農地70aにコスモスを植栽。
- 地区内の幼稚園児を対象に「親子連れ芋ほり大会」を実施し、ドローン撮影による「思い出提供」に取り組む。

活動の効果

- 農業用施設の点検・維持・改良はもとより、集落間のつながりが深まったことや農家と非農家の交流が促進された。
- コスモス植栽では、訪れる写真愛好家や親子連れとの交流が生まれ、「さわやかロード活動」などの景観保全意識が高まりつつ継続されている。
- 26年ぶりに新嘗祭の「献穀田」が受益地区内で選定された。

応募団体からのアピール・メッセージ

この活動を可能な限り三木町全体に広げるべきと考えており、高齢化等による活動継続が難しい組織に対する支援(区域編入等)を予定しています。

いなぎ けんぞう
稲木 健造

～化粧品原材料を目指した特別栽培の米作り～



海外顧客と昔ながらの定規での田植え体験



海外顧客と五右衛門風呂体験

経緯

- 平成25年度から綾川町で県独自水稲品種の「おいでまい」の低農薬栽培に取り組んできた。
- 米の発酵エキスが基礎化粧品の原料となることが注目され、家族の就職先であった高松市の化粧品製造販売会社と連携。特別栽培に切り替えた「おいでまい」を化粧品の原料として供給することになった。

取組内容

- 株式会社「アイム」の基礎化粧品「ライスフォース」の原料として出荷するにあたり、エコファーマーの認定を受け、減農薬、有機肥料の使用など安全性を重視した特別栽培にシフト。
- 安全性のアピールとブランド確立のため、海外の販売代理店を招待して栽培方法や管理状況を説明。
- 農家民泊「稲木家」を開業し、農家体験希望者を受け入れ。

活動の効果

- 化粧品の原材料に使用する特別栽培米作りは、農水省の6次産業化・地産地消費に基づく「総合化事業計画」の認定を受けた。また、かがわ産業支援財団の6次産業化へのサポートを受け、米の新たな活用法を見いだした。
- 農業体験や五右衛門風呂に入ってもらうなど綾川町の自然を体感してもらい好評を得ている。

応募団体からのアピール・メッセージ

農業を通じた地域経済の活性化や農家の継承者問題の解決を目指し、さらには伝統的な日本文化や香川県の自然と文化を世界に向けて発信していきたい。

綾川町北235-1 Tel: 090-3180-1473

のうだひがしかんきょうほぜんのかい

苗田東環境保全の会

～子供たちが描くポスターでふるさとを考える～



苗田東地区のPRポスター



子供たちと清掃活動

経緯

- 昭和42年に構造改善事業で基盤整備を行い農業中心の地域づくりをしていたが、世代交代や少子化が進んだために住民同士の交流が希薄になり、伝統行事の継承が難しくなっていた。
- 子供たちを交えて環境保全活動を行うことにより、以前のような交流の盛んな地域づくりに取り組むことにした。

取組内容

- 子供会と連携して道路沿いに投げ捨てられた空き缶等のゴミ拾いを実施。
- 子供たちが環境保全や苗田東のPRポスターを作成。9月に琴平町役場ロビーに展示した後、防水加工を施して青年部を中心とした地区住民が、ゴミの投げ捨ての多い幹線道路沿いに設置。

活動の効果

- 子供を中心とした活動に大人と一緒に参加することで、地区住民の連携が密になった。また、活動に参加する中で地元を良くしようとする意識が向上。地区の伝統文化である獅子舞に子供達が進んで参加するようになり伝統文化の継承につながっている。

応募団体からのアピール・メッセージ

活動内容を発展させるアイデアを誰もが提案できる環境を整備し、若い世代の自主性を重視した活動を行って地区を発展させていきたい。

まんのういけとちかいりょうく
満濃池土地改良区

～満濃池1300年の知恵と歴史を次世代へ～



貯水量1,540万m³を誇る満濃池



かりん会館で満濃池の歴史ガイド

経緯

- 毎年6月に行われる「ゆるぬき」には、多くの観光客が訪れ、讃岐路に夏の訪れを告げる風物詩となっている。また、ため池百選など多くの称号を得ている。
- 満濃池の歴史と先人たちの偉業を広く伝えるため、ボランティア団体などの文化活動を支援するに至った。

取組内容

- 古くから地域の水利事情に精通した者が、複雑な水利慣行を次世代に伝える組織体制を整えて後継者を育てている。
- 県下小学校では郷土学習の一環として満濃池の歴史を学習。社会科見学に毎年多くの子どもたちが訪れる。
- JICA研修によるアジア・アフリカ地域の技術者の他、県外の土地改良関係団体の現地視察を受入れ。

活動の効果

- ボランティア団体を中心に、池周辺の森林や公園への桜の植樹活動、学生や観光客への歴史ガイド、湖畔コンサート及び健康マラソン大会の開催など、満濃池を核とした活動も活発化しており、地域社会における観光資源とともに文化的シンボルとして大きな存在感を示している。

応募団体からのアピール・メッセージ

満濃池の文化的価値を高める活動を支援しており、土地改良施設の持つ多面的機能を広くPRするきっかけとなることを期待している。

しまがみねのげんふうけいをまもるかい

島が峰の原風景を守る会

～初めて会った人達もいつか笑顔のそばづくり～



島が峰の原風景



出張そば道場

経緯

- 島が峰地区は標高800mの山あいにある。かつては牧場やキャベツ畑にしていたが、人口減少・高齢化に伴い次第に衰退して荒地になっていった。
- 状況を憂いた数名の同志が、2016年より荒廃地の開墾から始め、寒暖差を利用したそば作りを開始した。

取組内容

- グリーンツーリズムの一環として、開墾した農地の一部を利用して「そばの栽培体験」を実施している。
- そばの花が満開となる9月下旬頃に「そばの花見会」を開催し、打ち込みそばの無料接待やミニコンサートなどを行っている。
- そば打ち体験ができる「そば道場」では出張道場も行い、そば粉から茹で上げまでの全工程を教えている。

活動の効果

- 耕作放棄地を開墾することによって、徐々にかつての風景を取り戻しつつあり、棚畑の美しさに魅了された写真家も多く訪れる。
- 収穫されたそばを用いた「そば道場」を各地で行うことにより、受講者が地元でそばを振る舞うなど、活動の影響が県内各地に波及している。
- 会員数が増加し、そばを活用しての6次産業化に向けて試行錯誤を繰り返しながら過疎地域の活性化に取り組んでいる。

応募団体からのアピール・メッセージ

この地の食文化や風景を次世代に残したいという思いで、会員一丸となって取り組んでいます。多数の来訪者に対応できるよう駐車場や展望台の整備を行いました。

ほのやまちいきほぜんかつどうそしき

帆山地域保全活動組織

～ほのやまロード、ひまわりに託す夢と希望～



中山ひまわり団地



地元小学生による総合学習

経緯

- 「帆山農業改善団体」を中心に営農活動を行ってきたが、農業従事者の高齢化等が進み、地域農業の維持が困難。
- 新たに農事組合法人「ほのやま」を設立、農地の利用権設定や作業受託等に取り組み、農地集積と機械の有効利用を図ると共に、次世代の担い手を育成。

取組内容

- ひまわり18ha、約100万本の開花にあわせ「ひまわり祭り」を開催。写生大会やフォトコンテストなどを実施し地域の活性化に寄与。
- 「ひまわり油」や県内企業と連携し、「ドレッシング」、「ひまわり牛」と孟宗タケノコを使用した「ヒマワリコロッケ」など地域の特産品を開発し最寄りの道の駅などで販売。
- 「ひまわり米」の生産に加え、新たにひまわりの油粕を使用した焼酎「みちる」を販売。

活動の効果

- ひまわり祭りは、地域住民の世代を超えた交流の活性化や若者のボランティアが増加するなどまんのう町のイベントに発展、県内外から延べ5万人余りが訪れる夏の風物詩に成長。
- 県内企業や地元の畜産農家と連携し、ひまわりを活用した特産品を数多く開発・販売、人気商品となり地域経済の活性化に貢献。

応募団体からのアピール・メッセージ

日本の花風景100選に選ばれたひまわりの里帆山地区。魅力ある農村景観を未来に繋げたい思いで、今後も耕作放棄地の解消を推進し更なる地域の活性化を目指したい。

まんのう町買田277-1 Tel: 0877-73-5371(事務局 近石)

かぶしがいしゃ ぐりんぱーくまんのう
株式会社 グリーンパークまんのう

～ひまわりを活用した町おこしプロジェクト～



ひまわりの刈り取り作業



イベント販売時の商品陳列状況

経緯

- 平成元年度から取り組んでいたひまわり事業を、地方創生の流れの中で農業振興策として平成28年度から町を挙げて取り組むこととなり、景観作物のひまわりと共に搾油用ひまわりで採れたオイルを地域ブランドとして全国に向け販売促進を行っている。
- 第3セクターとして町と連携してひまわり事業を支援し、雇用の拡大及び農家の所得向上に貢献すべく取り組んでいる。

取組内容

- 町が整備した「ものづくりセンター」でひまわりオイルの製造・販売を受け持ち、町と連携しながら高品質オイルを全国に向けて販売促進している。
- ひまわりオイルを使ったドレッシングは、町内の道の駅・まんのう公園内で販売。
- 農業法人「ほのやま」から、ひまわりオイルで揚げた「ひまわりコロケ」を買い取り、まんのう公園内のレストランで販売。
- 様々な事業者（化粧品・食品）へのアプローチを行う。

活動の効果

- 平成30年度の香川県産品コンクールでは最優秀賞の知事賞。各県の1位が集った「ふるさと優良食品中央コンクール」で最優秀賞の農林水産大臣賞を受賞する栄誉を手にした。
- 県内外の百貨店等での販売も順調に増加している。
- ひまわりオイルを使ったドレッシングは、道の駅・まんのう公園で好評商品となっている。

応募団体からのアピール・メッセージ

今後も当該事業に力を注ぎ、景観作物としての観光資源による経済活動と共に、農業振興施策として生き残りがかかった自治体間競争の一助となるよう活路を求め積極的な販売戦略を展開しながら多くの関係者と協力することで発展させていきたいと考えています。